

## 早稲田大学 文学部 英語 講評

|        |  |
|--------|--|
| 出題形式   | マーク・記述併用   |
| 試験時間   | 90分  |
| 特徴・その他 | 大問5題は昨年と同じ。全体的に分量、レベルとも昨年並みか。まずはIの語(句)補充問題がポイント。よくある設問形式だが、意外と落としてしまう大問だ。単語・熟語、文法、前後の対応関係などいろいろな知識、分析力が必要だ。ただ、半分は超えたいところ。IIIの脱文挿入問題も差がつく大問だ。数年前までと比べるとやさしくなったといえども、結構迷ってしまう。1箇所間違えば他の箇所も間違える可能性があるため、ここは時間をかけてでも正答率を上げないといけない。Vの要約問題は変更された昨年と同じ設問形式であった。今年度の文化構想学部とも同じだ。出だしが書かれていて、そのあとを4~10語で書き加えさせる形式だ。全体としては65%程度が合格最低点の目標と考えていいのではないと思われる。 |

## 〔大問別講評〕

| 番号  | 出題内容     | コメント  | 難易度 |
|-----|----------|---|-----|
| I   | 語(句)補充問題 | 分量は昨年並み。難易度はやや上がった印象がある。数年前までは非常に難しく、最近の問題はそこまで難しくはなかったが、今年度はまたかなり難しい問題になったと言えそうだ。特に(A)の抽象度が高く、しかも正解選択肢が benefactors、dissenting、fragmentation、menace などとなっている。半分正解するのも大変だ。(5)は以下のような関係を見抜く。 <u>The long struggle of the Catholic Church, for example, against Galileo is the struggle of a revealed total image of the universe against the threat of change, against ( 5 ).</u> SVCのSとCはイコールなので、上のような関係になるのではないかと考えるのだ。Galileo = ( 5 )ということだ。当然、文章の流れも重要だが、いざ設問を解くというときには論理関係や対応関係をしっかり意識すること。 | やや難 |
| II  | 内容一致問題   | 分量、レベルとも昨年並み。英文の難易度はそれほど高くなく、設問もそれほど紛らわしいものはなかった。本文を読む前にリード文を先に読み、何が問われているのかをしっかりと把握したうえで読むようにしましょう。正解率も重要だが、ここはいかに速く読み、短い時間で高得点を稼ぐかがポイントとなりそうだ。少し邪道だが、24は why を使った選択肢が正解で、やはり評論文は何らかのテーマに対する「なぜ」について述べるのが非常に多い。まさに評論文とはそういうものである。  | やや易 |
| III | 脱文挿入問題   | 分量、レベルとも昨年並み。今回もそれなりに代名詞や接続詞があった。たとえば、(b)の However は直後に at the time of his death という時を示す表現があるので、若いときや死んだ後との対比になっているのではと考える。(h)は文頭の When the war ended が何でもなさそうだが、時を示す表現が文頭にあるのでどこかと対比されやすく、前文脈の during the war とつながっている。(d)の Moreover は添加を表すので、前後には共通の語があるはずだ。流れも重要だが、ピンポイントで何かを手掛かりにする力もつけられるといいだろう。   | やや難 |

| 番号 | 出題内容  | コメント   | 難易度 |
|----|-------|--|-----|
| IV | 会話文問題 | 分量、レベルとも昨年並みか。簡単な単語が並んでいるだけの選択肢だが、意外とこれが難しいことがある。各選択肢の品詞がかなり違うので、そこは内容を考える前に押さえることが重要だ。got to (do)に「～しなければならない」の意味がある。また、Nice to meet you. は普通「初めまして」の訳で、初対面の人に合わせて話し始める前に使う表現だが、It was nice to meet you. の It was の省略で、「これからもよろしく」くらいの意味でも使える表現。とにかく、簡単な語で成り立っている表現をこまめに覚えていく作業が重要だ。  | 標準  |
| V  | 要約問題  | 200語程度の英文を一文の英語で要約させる問題。ただ、昨年から、文化構想学部同様、英文の出だしがすでに書かれていて、そのあとに続けて4～10語の英語を書かせる形式に変更された。書くべき内容はかなり限定されそう。in your own words であることも忘れないように！ 今回は、第6文(However, many …)からが主張部分。必ず入れないといけないのは、第8文(The upshot …)の follow an ‘English way of life’だ。upshot は当然難単語なので知らなくても仕方ないが、実は「結論」の意味がある。まさに結論だ。ただ、なぜイギリスの生活様式に従わないといけないかが書かれていないと不十分なので、前文の in case their regime itself came into question をうまく入れるようにしましょう。減点されないためにはできる限り簡単に書くことを心がけよう。難しい語彙や難しい文法などを使っても何の得にもならないと考えたほうがいい。 | 標準  |